

《《 全国学力・学習状況調査の結果について 》》

令和5年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（火）に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国の小中学校で実施されました。中学校3年生については、例年実施されている「国語」「数学」に今年度は「英語」の検査が加わり、3教科での実施となりました。また例年どおり、生徒の生活習慣や学習環境等に関する「質問紙調査」についても実施されました。この調査の目的は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導改善に役立てることです。

本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にもお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載いたします。

1 本校の状況

本校の平均正答率は、「国語」は全国と比較してほぼ同等、山梨県として比較してやや下回りました。また、「数学」と「英語」は、全国や山梨県とほぼ同等の結果となりました。各教科の結果については次に示すとおりです。

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|--------------|------|------|------|
| 山梨県（公立）平均正答率 | 70 | 50 | 43 |
| 全国（公立）平均正答率 | 69.8 | 51.0 | 45.6 |



2 各教科の分析結果と改善のための方策

中学校学習指導要領では、それぞれ教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて整理されており、これら3つの柱は相互に関係しながら育成されるものとしています。このうち、「国語」「数学」「英語」のそれぞれの教科について「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の2つの評価の観点に基づいて出題されています。



国語

【傾向と課題】

平均正答率は、全国と比較してほぼ同等、山梨県と比較してやや下回りました。特に、「知識・技能」の中で「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国や山梨県を下回りました。このことから、本校の特徴として言語事項の知識・理解について、苦手意識を持つ生徒が多いということが言えます。言語事項は、学習指導要領の「知識及び技能」の資質・能力となっているので、基礎・基本の徹底という点で改善が求められます。

【改善のための方策】

- 「語彙の拡充」を目的とし、漢字の読み書きを意識した帯学習を行うなどして「漢字の読み書きの徹底」をする必要があります。また、漢字の読み書きに関しては定期的な小テストを行っていくことで読み書きの徹底に繋がっていきたいと思います。
- 他にも「辞書の積極的な利用」を行っていく必要性があります。語彙の意味を理解するだけでなく、学習した語彙の適切な使い方を考えたり、短文をつくったりするなどして、生徒の語彙の拡充へと繋がっていきたいと思います。



数 学



【傾向と課題】

平均正答率は、全国や山梨県と比較してほぼ同等の結果となりました。学習指導要領の領域では、「数と式」「図形」「関数」において全国や山梨県と比較してほぼ同等という結果となりましたが、「データの活用」においては、全国や山梨県を下回る結果となりました。また、記述式の無回答率が高いという特徴があるので、長い問題文をしっかりと最後まで読む粘り強さや、何を問われているのかをきちんと読み取った上で、自分の考えを表現する力が求められます。

【改善のための方策】

- 表やグラフから数量の間の関係を読み取って式に表したり、式の表す意味を言葉で表したりして、理由や方法を言葉で説明する力の向上を図っていきます。
- 授業の中で、話し合いなどの言語活動を積極的に取り入れ、数学の言葉を使って説明したり、表現したりする活動を行う中で、自分の考えを表現する力を高めていくことを目指します。

英 語



【傾向と課題】

平均正答率は、全国や山梨県と比較してほぼ同等の結果となりました。領域別で見ると、「聞くこと」「読むこと」では、平均正答率も高く、内容を大まかに捉えて理解することができています。しかし、目的に応じて、または自分が置かれた状況から判断して必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする設問では課題が見られました。「書くこと」では、全国や山梨県を上回ったものもありましたが、全体的には正答率が低く、特に会話が成り立つような英文を完成したり、自分の考えを整理してまとまりのある文章を書いたりする問題等で正答率が低かったです。「話すこと」においては、相手から求められている内容を理解した上で、必要な言語材料を適切に活用して応答することが、生徒にとってとてもハードルが高かったです。また、記述問題で無回答率が高く、初めから諦めてしまう傾向が顕著であることも課題です。

【改善のための方策】

- 帯学習やペア学習の継続により身につけるべき言語材料の理解、定着を図る。単なる知識として学習するのではなく、コミュニケーションの目的、場面、状況を意識させながら指導する。同時に、家庭学習の充実、小テストの継続実施を通して確実な定着を目指します。
- 知識を活用して発信する力をつけるために、英語でスピーチをしたり、自分の考えや気持ちを伝え合ったりする言語活動に積極的に取り組みます。話すことに対する生徒間の学力差を考慮し、学習内容やレベルを工夫しつつ、ペアやグループで意見交換をしながら、表現への意欲と正確性を高めていくことを目指します。

将来



3 質問紙調査の結果と改善のための方策

【調査結果から】

全国や山梨県と比較して、「先生はよいところを認めてくれる」「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」などの「先生との関係」は、全国よりやや高く、山梨県とほぼ同等の数値を示しています。また、「友達関係」「学校に行く楽しさ」などについても、全国や山梨県とほぼ同等の数値を示しています。日常生活では「毎日の朝食の摂食」「毎日同時刻の就寝時間」というような基本的な生活習慣に関わる項目、自己肯定感に関する項目や将来の夢や目標をもつ項目に低さが見られました。学習に関わっては“学習する意義”が見い出せないため、「自分で計画を立てて勉強をする」「授業で課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」「学習内容の振り返り、次の学習につなげる」などの項目が低く、学習に対して受け身になっている状況が見受けられます。

【改善のための方策】

上記の結果から、授業や学級活動、生徒会活動、部活動などの教育活動全体をとおして、一人一人の生徒が自己有用感を得られる場面を今後も設定し、自己肯定感の高揚化を図っていきたいと思います。また、キャリア教育の充実を図り、将来の自分像をしっかりと描く中で、学習する意義を理解し、学習意欲の向上や適切な進路選択につなげていきたいと思います。学習に関わっては、授業での ICT 機器利用率が全国や山梨県よりも高いので、授業や家庭学習に ICT 機器を効果的に活用して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう取り組んでいきたいと思います。

家庭や地域と連携し、これらの取り組みを推進してまいりますので、ご協力をお願いいたします。